

2022年3月期  
**第2四半期決算説明会**

2021年11月24日

株式会社ジャムコ



# 技術のジャムコは、 士魂の気概をもって

- 一、夢の実現にむけて挑戦しつづけます。
- 一、お客様の喜びと社員の幸せを求めていきます。
- 一、自然との共生をはかり、豊かな社会づくりに貢献します。

- この資料に掲載されている情報のうち歴史的事実以外のものは、発表時点で入手可能な情報に基づく当社の経営陣の判断による将来に関する見通しであり、経済動向、為替レート、市場需要、税制や諸制度に関するさまざまなリスクや不確実な要素を含んでおります。実際の業績はこれらの見通しとは異なる結果があり得ることをご承知おきください。
- この資料における数値について、記載金額は、表示桁未満を切捨てしており、増減率(%)は、表示桁未満を四捨五入して作成、表示しております。
- 本資料を(株)ジャムコの許可無く転載・複写することを禁じます。又、本資料を使用することにより生じたいかなる損害について(株)ジャムコは一切責任を負いません。

## Contents

<b>SECTION 1</b>	<b>2022年3月期 第2四半期決算の状況</b>
	03   グループ連結P/L
	04   連結経常利益の前年同期比差異要因
	05   セグメント別 売上高・経常利益-①(前年同期比)
	06   セグメント別 売上高・経常利益-②(前年同期比)
	07   グループ連結B/S
	08   グループ連結C/F
	09   グループ各社の状況 (2022年3月期/上期)
	10   通期見通し
<b>SECTION 2</b>	<b>市場環境と当社の取組み状況</b>
	12   市場環境
	13   収益改善の進捗状況

# 2022年3月期 第2四半期決算の状況

SECTION

1

- 03 | グループ連結P/L
- 04 | 連結経常利益の前年同期比差異要因
- 05 | セグメント別 売上高・経常利益 ①(前年同期比)
- 06 | セグメント別 売上高・経常利益 ②(前年同期比)
- 07 | グループ連結B/S
- 08 | グループ連結C/F
- 09 | グループ各社の状況 (2022年3月期/上期)
- 10 | 通期見通し

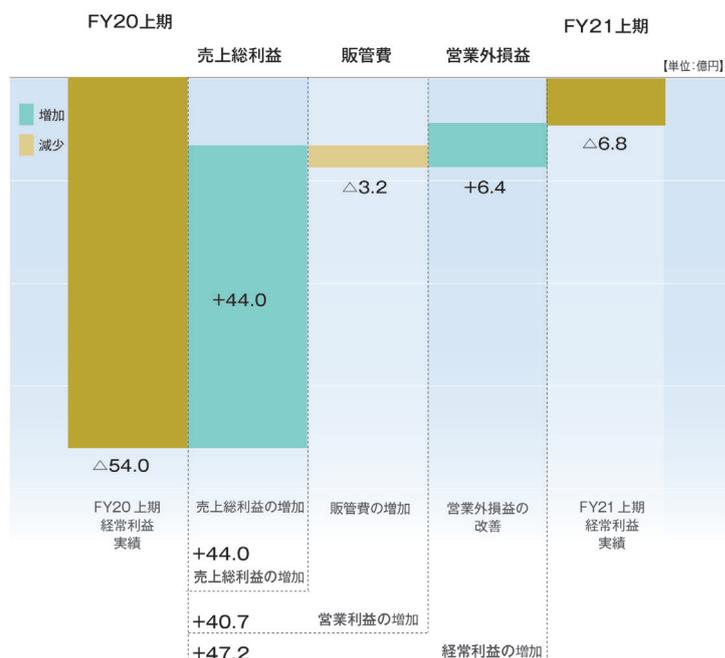
【単位:百万円】

	FY20上期 (実績)	FY21上期 (実績)	前年同期比 (増減)
売上高	25,860	18,477	△ 7,382
売上総利益	△ 1,264	3,139	4,404
販売管費	3,326	3,651	324
営業利益	△ 4,591	△ 511	4,079
営業外損益	△ 818	△ 175	642
経常利益	△ 5,409	△ 687	4,722
特別損益	△ 640	300	940
税金等調整前 四半期純利益	△ 6,050	△ 387	5,663
親会社株主に帰属する 四半期純利益	△ 4,294	△ 47	4,247
1株当たり四半期純利益 (円)	△ 160.10	△ 1.76	—
売上為替レート (円/USドル)	107.52	109.16	—

## グループ連結 P/L

- 売上高は、前期 258億円、当期実績は 184億円。
- 経常利益は、前期 54億円の経常損失、当期実績は 6億 8千万円の経常損失。
- 親会社株主に帰属する四半期純利益は、前期 42億 9千万円の純損失、当期実績は 4千万円の純損失。
- 2021年度上期の売上平均為替レートは 1ドル 109円 16銭となり、前期の 1ドル 107円 52銭に対して 1円 64銭円安。

## ■ 前年同期比 +47.2億円



## Point

## ■ 売上総利益

- 顧客仕様変更に伴う追加売上が第1四半期連結会計期間に集中したことや、為替レートが想定より円安で推移したことなどによるもの

## ■ 販管費

- 試験研究費の増加 △4.2億円
- 保証工事費の減少 +0.4億円
- 人件費の減少 +0.3億円
- 販売手数料の減少 +0.1億円
- その他 +0.2億円

## ■ 営業外損益

- 為替差損益の改善 +5.8億円
- 支払補償費の減少 +0.4億円
- その他 +0.2億円

## 連結経常利益の前年同期比差異要因

- 売上総利益については、新型コロナウイルス感染症拡大による航空需要の落ち込みにより売上高は減少したが、航空機内装品等製造関連における顧客仕様変更に伴う追加売上が第1四半期連結会計期間に集中したことや、為替レートが想定より円安で推移したこと、又、原価削減が進んだことなどにより、売上総利益は44億円増加。
- 販管費については、経費削減に取り組み、保証工事費、人件費、販売手数料などは減少したが、ビジネスクラス・シート「Venture」の他機種向け製品開発などにより試験研究費が増加したことなどから損方向に3億2千万円影響。
- 営業外損益については、為替相場が円安に進んだことによる為替差損益の改善などから益方向に6億4千万円。
- その結果、前期実績の経常損失54億円より47億2千万円改善し、当期実績は経常損失6億8千万円。

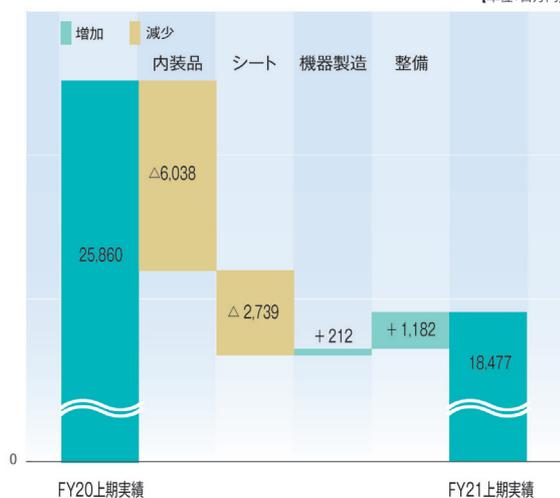
【単位:百万円】

	売上高			経常利益		
	FY20上期 (実績)	FY21上期 (実績)	前年同期比 (増減)	FY20上期 (実績)	FY21上期 (実績)	前年同期比 (増減)
航空機内装品	17,928	11,890	△ 6,038	△ 3,455	851	4,306
航空機シート	3,652	913	△ 2,739	△ 1,791	△ 1,390	401
航空機器製造	1,731	1,943	212	△ 102	△ 247	△ 144
航空機整備	2,547	3,730	1,182	△ 60	113	174
その他	0	0	0	0	△ 14	△ 15
合計	25,860	18,477	△ 7,382	△ 5,409	△ 687	4,722

(注)「その他」はオレンジジャムコの事業を含んでおります。

## 売上高

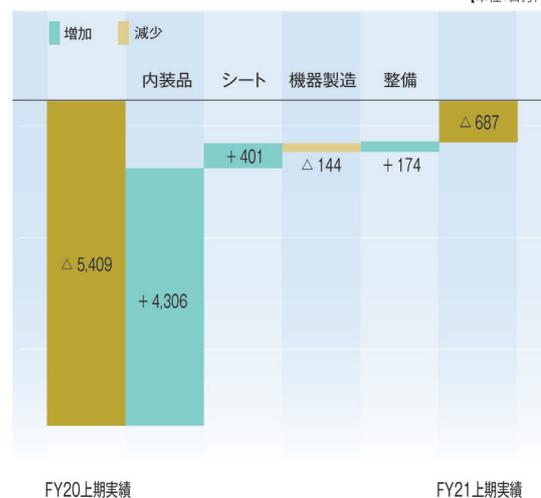
【単位:百万円】



Point
■ 内装品は感染症拡大による影響等で航空メーカーは更なる減産や生産スケジュール変更を余儀なくされたことから、ギャレー及びラバトリーの出荷が減少
■ シートは感染症拡大による影響等で顧客による納期変更などにより減少
■ 機器製造は民間航空機向け製品の炭素繊維構造部材や航空機エンジン部品の出荷が増加
■ 整備は機体整備において一部プログラムの完成工事が増加

## 経常利益

【単位:百万円】



Point
■ 内装品は原価低減策の効果や一部プログラムにおいて顧客仕様変更に伴う追加売上などの影響、又、為替差益の発生により改善
■ シートは原価低減策の効果や採算性の悪い特注品の出荷が減少し改善
■ 機器製造は採算性の良い製品の出荷が減少したことなどにより悪化
■ 整備は売上高増加などにより改善

## セグメント別 売上高・経常利益 (前年同期比)

## 売上高 (前期比増減)

- 内装品セグメントは、感染症拡大による影響等で航空メーカーは更なる減産や生産スケジュール変更を余儀なくされたことから、ギャレー及びラバトリーの出荷が減少し、60億3千万円減少。
- シートセグメントについても、感染症拡大による影響等で顧客による納期変更などにより27億3千万円減少。
- 機器製造セグメントは、民間航空機向け製品の炭素繊維構造部材や航空機エンジン部品の出荷が増加したことにより2億1千万円増加。
- 整備セグメントは、機体整備において一部プログラムの完成工事が増加したことにより、11億8千万円増加。

## 経常利益 (前期比増減)

- 内装品セグメントは、原価低減策の効果や一部プログラムにおいて顧客仕様変更に伴う追加売上などの影響、又、為替差益の発生により43億円改善。
- シートセグメントは、原価低減策の効果や採算性の悪い特注品の出荷が減少し4億円改善。
- 機器製造セグメントは、採算性の良い製品の出荷が減少したことなどにより1億4千万円悪化。
- 整備セグメントは、売上高増加などにより1億7千万円改善。

【単位:百万円】

科目	FY20末 2021年3月31日現在	FY21 2Q末 2021年9月30日現在	増減	科目	FY20末 2021年3月31日現在	FY21 2Q末 2021年9月30日現在	増減
<b>&lt;資産の部&gt;</b>				<b>&lt;負債の部&gt;</b>			
<b>流動資産</b>				<b>流動負債</b>			
現金及び預金	5,275	9,273	3,998	支払手形及び買掛金	3,726	4,061	335
受取手形及び売掛金	21,092	18,038	△ 3,054	電子記録債務	3,482	2,481	△ 1,000
棚卸資産	47,408	41,750	△ 5,658	短期借入金	48,118	46,869	△ 1,248
その他流動資産	3,156	2,783	△ 372	1年内返済予定の長期借入金	1,000	660	△ 340
<b>流動資産合計</b>	<b>76,932</b>	<b>71,845</b>	<b>△ 5,087</b>	前受金	5,516	5,390	△ 126
<b>固定資産</b>				<b>固定負債</b>			
有形固定資産	12,782	12,484	△ 298	長期借入金	3,000	2,640	△ 360
無形固定資産	1,692	1,440	△ 251	その他固定負債	10,346	9,759	△ 587
投資その他の資産	9,829	10,128	299	<b>固定負債合計</b>	<b>13,346</b>	<b>12,399</b>	<b>△ 947</b>
<b>固定資産合計</b>	<b>24,303</b>	<b>24,053</b>	<b>△ 250</b>	<b>負債合計</b>	<b>84,719</b>	<b>80,974</b>	<b>△ 3,745</b>
<b>資産合計</b>	<b>101,236</b>	<b>95,899</b>	<b>△ 5,337</b>	<b>&lt;純資産の部&gt;</b>			
				<b>純資産合計</b>			
				16,517			
				14,925			
				△ 1,592			
				<b>負債及び純資産合計</b>			
				101,236			
				95,899			
				△ 5,337			

## Point

- 受取手形及び売掛金は、売上高減少と売掛金の回収により減少
- 自己資本比率 16.0% → 15.2%
- 棚卸資産は、発注計画の見直しにより減少
- 純資産合計は、収益認識会計基準の適用等により減少

## グループ連結 B/S

- 資産合計については、受取手形及び売掛金は売上高の減少と売掛金の回収により 30 億円減少。又、棚卸資産は発注計画の見直しにより 56 億円減少し、資産合計では 53 億円減少。
- 負債純資産については、電子記録債務は 10 億円減少し、短期借入金も 12 億円減少。
- 純資産合計は、収益認識会計基準の適用等により 15 億 9 千万円減少。
- 自己資本比率は 16.0%から 15.2%へと 0.8 ポイント低下。

【単位:百万円】

	FY20上期	FY21上期
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 7,809	6,545
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 728	△ 113
フリー・キャッシュ・フロー	△ 8,537	6,432
財務活動によるキャッシュ・フロー	7,219	△ 2,290
現金及び現金同等物の増減	△ 1,456	4,207
現金及び現金同等物の期末残高	5,710	8,154

## Point

- 営業活動によるキャッシュ・フローは、売掛金の回収によりキャッシュインフロー

## グループ連結 C/F

- 営業活動によるキャッシュフローは、売掛金の回収等により 65 億円のキャッシュインフロー。
- 投資活動によるキャッシュフローは、設備投資の抑制を行い、1 億円のキャッシュアウト。
- これらの結果、2021 年度上期のフリーキャッシュフローは、64 億 3 千万円のキャッシュインフロー。
- キャッシュフローは、前期に対して大きく改善。

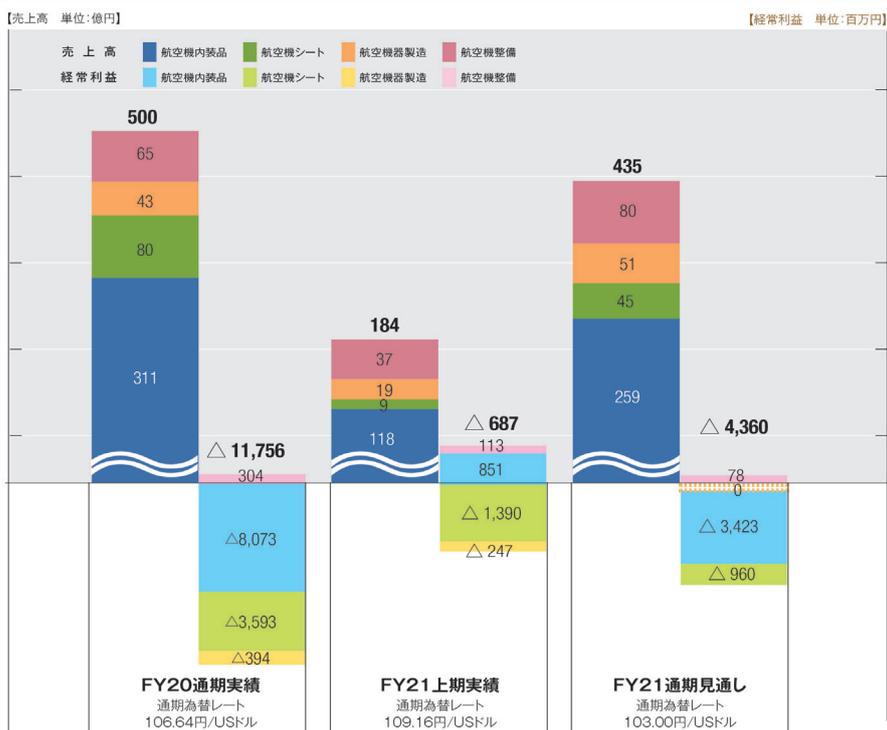
【単位:百万円】

	当社	新潟 ジャムコ	宮崎 ジャムコ	中条 ジャムコ	ジャムコ アメリカ	ジャムコ エアロデザイン エンジニア リング	ジャムコ シンガポール	ジャムコ フィリピン	ジャムコ エアロ マニュファク チャリング	徳島 ジャムコ	ジャムコ エアロテック	オレンジ ジャムコ
売上高	17,272	679	380	226	2,382	256	0	196	331	379	197	32
営業利益	254	△ 285	△ 64	△ 54	△ 492	△ 21	△ 62	18	△ 74	41	19	△ 14
経常利益	170	△ 277	△ 69	△ 55	△ 549	△ 17	△ 65	15	△ 74	41	19	△ 13
当期純利益	298	△ 224	△ 49	△ 47	△ 161	7	△ 61	11	△ 49	26	11	△ 9

(注1) ジャムコシンガポールは、今後の安定的な生産の見通しが立たないことから、会社清算(解散日は2021年1月31日)

## グループ各社の状況

- グループ各社においても、引き続き新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、売上高が減少し、収益が悪化。
- 内装品・シートの生産拠点である新潟ジャムコ・宮崎ジャムコ・中条ジャムコ・ジャムコアメリカについては、生産レートが低下しており赤字。
- ジャムコエアロマニュファクチャリングについても民間航空機向け製品の炭素繊維構造部材や航空機エンジン部品の出荷が減少し赤字。



## FY21通期見通し

連結業績予想につきましては、新型コロナウイルス感染症（変異株）の拡大や、一部航空機メーカーによる生産調整の公表などもあり、不透明な経営環境が当面継続するものと想定しており、連結会計年度の業績予想に変更はありません。

## 通期見通し

- 2021年度上期の業績は、2021年5月11日に公表した連結業績予想値に対して、利益面の進捗は想定を上回る。
- これは、航空機内装品等製造関連における顧客仕様変更に伴う追加売上が第1四半期連結会計期間に集中したことや、為替レートが想定より円安傾向で推移したことなどによるもの。
- 連結業績予想については、新型コロナウイルス感染症の拡大や、一部航空機メーカーによる生産調整の公表などもあり、不透明な経営環境が当面継続するものと想定しており、連結会計年度の業績予想に変更は無し。
- 連結業績予想の前提となる為替レートは1ドル103円から変更は無し。

# 市場環境と当社の取組み状況

- 12 | 市場環境
- 13 | 収益改善の進捗状況

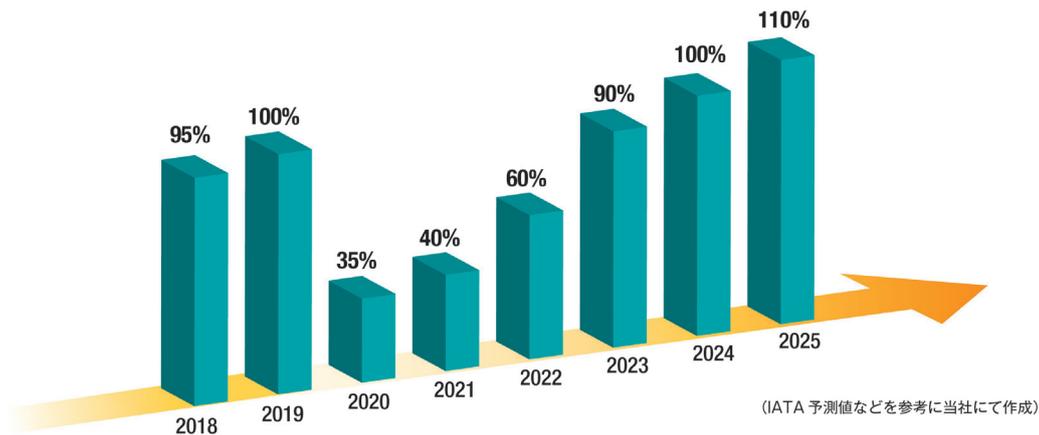
SECTION

2

● 足元の市場環境は、概ね 期初見通しの通り。

- 2021年度の旅客航空需要はコロナ禍以前の4割程度。
- 欧米の国内線に限るとコロナ禍以前の7~8割程度まで回復。  
国際線においても各国で入国制限緩和の傾向。
- スペア部品の需要が回復。  
客室内改修用内装品や改修用キットの引合いも徐々に回復。
- 航空機メーカーの新造機生産は横ばい。

航空旅客需要の回復イメージ（2019年度を100%とする）



## 市場環境

- 本年春、当社はコロナ禍で縮小した航空旅客需要が以前の水準まで回復するのは2024年頃という見通しを立て、これに基づいて経営計画を策定。
- 又、足元となる2021年度は、概ね見通し通りの市場環境であり、航空旅客需要は2019年度の4割程度に留まるものと想定。
- 日本国内やアジアでは航空需要に際立った回復傾向が見られず、大変厳しい環境が続いている。
- 一方で欧米の国内移動に限って言えば、コロナ禍以前の7~8割程度まで需要が回復。
- 国際線においてもワクチン接種率の上昇に伴う各国での入国制限緩和の動き、一部エアラインの四半期決算黒字化など、明るい話題も増えてきている。
- 航空機メーカーによる新造機生産は横ばいの状態が続いているが、既存航空機の運航が回復し始めたことから、スペア部品の需要が戻り始め、客室内改修用の各種内装品や改修キットの引合いも、徐々に増加している状況。

● **規模適正化の効果:**

- 生産拠点統合、人員削減など、規模適正化を予定通り実施。  
(上期は前年同期比、36億円の経費削減)

● **収益性改善:**

- 一部航空機メーカーによる生産調整等により、航空機シートの売上期ズレが発生したものの、航空機内装品は、原価低減や顧客仕様変更による追加売上等により収益が改善。

● **航空需要回復の手応え:**

- スペア部品受注は、コロナ禍以前の4割程度まで回復。(前年同期比9割増)
- 1月以降、機体メーカーとの長期契約以外に、エアラインなどから200億円を超える新規受注を獲得。引合いも増加中。

● **応需能力の回復:**

- グループ外への出向社員を順次復帰予定。
- 市場回復に応じて、設備／人員の補強予定。

## 収益改善の進捗状況

■ **規模適正化の効果**

2021年度上期においては、生産拠点の統合や人員削減等、規模適正化を予定通り推し進め、前年同期比において36億円の経費削減を行った。通期では、予定通り前年度比50億円程度の経費を削減できる見込み。

■ **収益性の改善**

シート事業においては、一部航空機メーカーによる生産調整のために売上の期ズレが生じている状況。一方、内装品セグメントにおいては、原価低減策の効果や一部プログラムにおける顧客からの仕様の変更への対応による追加売上などの影響により、大幅な収益改善。

■ **航空需要回復の手応え**

米国や欧州を始めとする国々で国内航空旅客需要が回復傾向にあり、スペア部品の受注はコロナ禍前の4割程度(前年同期比で9割増)まで回復。又、1月以降、機体メーカーとの長期契約以外に200億円を超える新規受注を獲得しており、現在も引き合いが増加している状況。

■ **応需能力の回復**

需要の戻りに合わせ、現在グループ外へ出向中の社員の順次復帰を予定しており、将来においては市場回復に応じた設備や人員の増強も行い、応需能力の維持・回復に努める。